

RMO

Region Management Organization
Future vision of KIKUKA Sakimori-Tai

番所地区 将来
ビジョン

地域の資源を未来へつなぐ！
踏み出す一歩



令和6年(2024年)3月
菊鹿さきもり隊

STEP
03

菊鹿町の概要

菊鹿町は熊本県北部にある豊かな自然に囲まれたのどかなエリア

総面積
77.38km²
内陸地面積20.1%
(山鹿市の25.8%)



菊鹿町

菊鹿町は、平成17年1月に旧山鹿市と周辺の旧四町が合併して誕生した「山鹿市」に属し熊本県の北部に位置しています。一部は福岡県・大分県と境を接し面積の約3分の2を林野が占める中山間の町で、緑と清流と史跡に恵まれた地域です。

北部から東部にかけて標高千メートル級の山々が連なり、これらの山岳地帯を源とする上内田川・木野川などの清流が山あいの耕地を潤しながら南へ流れ菊池川に注いでいます。

町内にはあんずの丘や菊鹿ワイナリー、菊鹿温泉、矢谷溪谷、八方ヶ岳など豊かな観光資源に恵まれ、歴史公園鞠智城、隈部館跡、相良観音など歴史文化遺産も数多く残っています。

現 状

- ◆ 番所地区は菊鹿町の山間部に位置しており、彼岸花で有名な「番所の棚田」（日本棚田百選）や、湧水豊富で美しい「矢谷溪谷」など地域資源に恵まれている。

課 題

- ◆ 高齢化等による過疎化が進んでおり農地の維持管理については、年々と離農者も増えており遊休農地が増加している。

熊 日 掲 載

- ◆ 伝統の棚田、揺らぐ景観保全
山鹿市・番所地区、稲作断念相次ぐ、進む高齢化、担い手確保難しく



世帯数

菊鹿町 **5,404** 人
番所地区 **119** 人
(令和5年3月現在)

菊鹿町 **2,254** 戸
番所地区 **55** 戸
(令和5年3月現在)

菊鹿町(人)



番所地区人口【一区】(人)



STEP

04

菊鹿さきもり隊について

KIKUKA
Sakimori-Tai



活動内容

1 祭りの開催

H8- あんずの丘子どもフェスティバル
H29- きくか夏まつりの開催



H30- 「きくかまつり」の開催
(2つのイベント統合)



2 地域貢献活動

R1- 番所の棚田『番所集落協定』の
草刈り作業参加(年4回程度)



R4 「地域課題解決プロデューサー人材活用事業」
※番所の棚田の現状把握・フットパスコース選定・今後の方向性等



設立の経緯

平成7年(1995年)に地域おこしの
一環として菊鹿町の各地区(38区)
より選出された担い手と商工会や役所
等が一体となって「菊鹿さきもり隊」
を結成。

活動の目的

自然に恵まれた菊鹿町の良さを多くの
方に知ってもらい、魅力あるイベント
を通して地名度の向上と過疎化や高
齢化の進む中であっても、交流人口を
増やし、地域に活力を与える事が目的。



名前の由来

防人(さきもり)とは、国を守る人を指
す言葉。山鹿市菊鹿町にある歴史公
園鞠智城に縁(ゆかり)のある防人の
名前を採用し、町を守り発展させてい
きたいと願いを込め「菊鹿さきもり隊」
となった。

〈コロナ禍での実施〉

R2 棚田の灯り

R3 スカイランタン
×花火

R4 デジタルアート
×花火

R5- 通常
開催

R1 番所の棚田「番所集落協定」 草刈り作業に参加

地域貢献活動として、年4回程度行なわれる草刈り作業に参加し、地域の方達と交流を図る。



R2 きくかまつり2020 「棚田の灯り」

「番所の棚田」を会場に、山鹿灯籠などを設置。新型コロナウイルスの一日も早い終息を願い、567(コロナ)+1の568基を灯した。



R4 熊本県「地域課題解決 プロデューサー人材活用 事業の取組み

「番所の棚田」の現状把握、フットパスコース選定、今後の方向性な等を検討。



STEP
05

菊鹿さきもり隊の構想とは

菊鹿さきもり隊
メンバー構成

61名

地区選出	31名	市役所 (菊鹿職員)	17名
商工会 青年部	12名	地域おこし 協力隊	1名

派生

きくかまつり開催



番所棚田の再生に向けた新たなプロジェクトチーム

さきもり隊
から有志の参画

連携

番所集落協定
(中山間地域等直接支払制度)営農活動(棚田再生・景観維持)
米の作付けを基本とし農地保全活動を試行的に開始

協議会設立

農業法人化
(検討)

構成案

- 集落協定(番所・一区・オドシ)
- 自治会(一区) ■ 地元担い手
- 社会福祉協議会・福祉団体
- その他(移住者・賛同者等)

農用地の保全・地域資源の活用・生活支援

農村型地域運営組織(農村RMO)形成

地域課題の解決に向けた取り組みを持続的に実践

菊鹿町の活性化

STEP
01

将来ビジョン策定方針

地域で支え合うむらづくり
「農村型地域運営組織」(農村RMO)形成に向けて

番所地区は、山鹿市菊鹿町矢谷地内にあり山の斜面に重なり合う石垣の棚田と家並みとが美しい景観を示す集落です。かつて熊本と大分の日田を結ぶ往還が通り、通行人の出入りや荷物を調べた「御番所」があり「番所」の地名の由来になったといわれています。

地区内には矢谷溪谷の清流を活かしたキャンプ場などの観光施設や矢谷阿蘇神社などの史跡、そして彼岸花で有名な棚田があります。また、ヤマメやマスの養殖も行われており、地区の特産品のひとつとなっています。

特に、「番所の棚田」の風景は大変美しく印象深いもので、平成4年には熊本農村景観コンクールで「農村景観大賞」を受賞し、平成11年には「日本の棚田百選」にも選定されるなど、山鹿市を誇る農村景観を残している地区です。

一方で、過疎化・少子高齢化の進行により高齢化率は50%を超えており、将来において自治機能の低下や集落内の社会的共同生活に大きな影響を及ぼしてることが予想されています。また、社会構造等の変化により農業従事者が減少していく中で、担い手不足による農地の荒廃や農村景観の魅力が損なわれることが危惧されます。

美しい農村は私たちに懐かしさや温かさ、癒しを与えてくれます。これは、先人達が豊かな自然を舞台に、それと密接に関係しながら暮らしや農業等の生業を営んできた結果でもあります。今に生きる私たちは、この美しい農村を守り次の世代に引き継ぐ責任があります。



本ビジョンは

地区内外を問わず農家、非農家が一体となり、広域的に支え合う「農村型地域運営組織」(農村RMO)を形成し、生産、生活扶助、資源管理に取り組むことで、地域コミュニティの維持・強化を図り、地区が抱える様々な課題を解決するための手法として活用していきたいと考えています。

STEP
06

農村型地域運営組織（農村RMO） 形成に向けた対応方針



現状と課題

本地区は「番所の棚田」が有名で、彼岸花が咲く9月には多くの見物客が訪れている。しかしながら農業形態は殆どが個人経営の兼業農家であり、高齢化や担い手不足により農地の荒廃や地域の活力低下が特に懸念されている。

対応方針

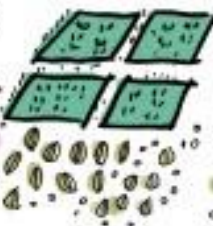
農村RMOを形成し、多種多様な人材や組織が連携して活動することで、関係人口の増大や持続可能な集落機能確立する。また、効率的な農業生産や地域資源を活用したイベント等による収益確保に努め地域の活性化を目指す。

STEP
16令和5年度活動報告
グラフィックレコーディング ②

菊鹿町 48 は

文化と歴史がある。
採取田があった

もともとある文化の活用



木間田



200枚

循環サイクルでつくっていく!!

活用
ex) 左利き

植えるとその土地に合った進化をしていく

ココでしか咲かない!!
イロニチ。
彼岸花開花時以外にも
木間田 出店
木間田 de カフェ
etc.

廃校活用

ex) 共用農機具置き場
おき田・算成

保全活動

ex) 神社にお参りして
地元を守るお金銭
を納めていただく...山鹿全体で
稼げるもの
モデルづくり
どうやっていく2023年はビヨコンペリ
RMO
3年間計画

3年後自走!!

コネテニツッくり

① ワークション

② 県内外から集まり
42種体験

③ リア-を軸に

→ 22 → 宿泊

土日は何もないからOK!!

にせう → ニスが安い!!

<19 季節は回転して行く

PR



みんなさ

福岡にPRは? → スタイ、WSは来る

→ 距離感が近い

→ 山鹿遠いイメージが強い

山鹿はPRが... 0

市内の人、旅行者の時間の間隔に差がある

土曜区域 → 南鹿は遠い

ex) 阿蘇から → 山鹿 1H 程度、南鹿

もっと近くに思われている

市内から南鹿は1H 以内と思われている

九州にある山鹿(菊鹿)の位置関係

がわかるマップが欲しい!!

ex) 点でつなげるコースをつくる (マップ作り)

参加会員と募る

④ 視察 → 収益

全宿泊・温泉

仲間づくり

ex) 地域をまるごと
リーダーが活躍!!
ココで体験できる
うまい!!

若者募集 持参のリーダー

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

信頭でできる人へのかけ!!

国産品

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

信頼

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

大事

空家

活用

活用

活用

活用

活用

活用

活用

活用

活用

活用

活用

企業

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

協賛

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

PR

STEP
11令和5年度活動報告
①農用地保全

番所集落協定農用地意向調査

実施日：R5.4.2/R6.1.7

- 現状** 【生産】
米の作付1割・果樹(栗等)5割・遊休農地4割
【施設】
水路被災1箇所・要改良1箇所・石垣崩
2箇所・鳥獣被害の拡大(防護柵)等
- 課題** 現耕作者(管理者)の大半は高齢者であり、離農者や遊休農地は今後拡大傾向にあるため管理の承継体制構築が急務。



番所集落協定ヒアリング調査

実施日：R5.10.23～11.2

石垣復旧ワークショップ

石垣崩壊2箇所の復旧

- ①幅4m×高さ2.5m ②幅5m×高さ3m
令和2年豪雨で被災(石垣崩壊)し、復旧されていない農地法面を景観に配慮し原型で復旧するためワークショップを行った。



石垣復旧ワークショップ

原型復旧状況

番所集落協定合同作業

番所集落協定と連携し草刈り・水路清掃作業に参加

- 【草刈り作業】
年6回参加
①4/23 ②5/21 ③7/16 ④8/12 ⑤9/9 ⑥10/9
【水路清掃】
R5.5.21実施



番所集落協定合同作業

遊休農地活用による農産物試験作付

実施日：R5.4月～11月

【米】無肥料・無農薬栽培

作付面積30a(棚田11枚)
うるち米「ヒノカリ」23a(棚田10枚)収穫量:430kgうち
かけ干し3a(棚田1枚)
もち米7a(棚田1枚)収穫量:170kg

検証結果

収穫量は通常の約半数(3俵/10a)。原因として高温障害や肥料不足、病気被害が考えられる。米は景観維持や高付加価値によるブランド化を目指しているため今後は土づくりと水管理に注力し収穫量を増やす必要がある。なお、機械乾燥よりもかけ干しの評価が高かったため今後は、かけ干しを増やしていく。

【大根】無肥料・無農薬栽培

作付面積2a(棚田1枚)
4種類の試験栽培
(品種:①在来種・②秋の郷・③秋の宴・④青首長)

検証結果

全体的に生育不足(肥料不足)であったが、「秋の宴」と「青首長」は販売可能であると考えている。今後はこの2品種に絞るとともに土づくりに注力する必要がある。

総論

無化学肥料・無農薬はメンバーの総意であるため土づくりがキポイントになる。また、メンバーは非農家構成のため省力化を図るためには地元の協力(機械リースや営農指導)は必要不可欠であり、あわせて専門家による助言や指導による栽培品目選定と生産体制の確立を目指していく必要がある。



米の作付箇所



苗床作業



田植え



稲刈り



掛け干し



大根作付状況



大根品種別検証(4種類)



STEP
13令和5年度活動報告
② 地域資源活用

伝統行事継承・ワークショップ等

餅つき

R5.12.24開催

イベント協力・ふるまい用餅米提供・鏡餅つき

実施結果

圏本地域の地域づくり団体「ピークル」と連携し、餅つきイベントを協力して行った。餅は、来場者と番所地区住民へのふるまいや矢谷阿蘇神社の鏡餅としてお供えた。他団体と連携することで相互理解や協力体制が構築されるため今後も継続していきたい。



餅つきイベント



どんどや

R6.1.13開催

地元住民等約30人参加

実施結果

地元では今回から開催しない方向性であった「どんどや」を自治会・消防団・住民(指導者)の協力を得て準備作業からふるまい(しし餅・餅)まで行った。今後も引き続き継続していくことで地域の活力低下を防いでいきたい。



どんどや実施状況



土づくりワークショップ・農業機械講習会

高付加価値化や省力化に向けたワークショップ及び機械運転講習会の実施。

【土づくりワークショップ】 R6.3.6実施

自然栽培農家を招いて土壌づくりと作付けのワークショップ

【農業機械講習会】 R6.3.2実施

熊本クボタ山鹿営業所よりトラクターの運転講習会



土づくりワークショップ



トラクター講習会

福祉団体との協議

一般社団法人やまがの恩送りの会

R6.2.29実施



協議内容

番所地区の現状説明や農産物集出荷、買い物・送迎支援、見守り等について、当団体が提供する「支え合いサービス」の実証可能性について協議を行った。

山鹿市社会福祉協議会

R6.3.12実施



協議内容

番所地区の現状説明や生活支援に関する連携等について意見交換を行った。

協議結果

高齢者等への生活支援については、地域の中で支えあう仕組みの構築が必要であり、今後計画づくりや実証事業について、両団体と連携していくことで合意を固めた。

研修

先進地視察研修

R5.11.11 11名参加



視察先①：中島農園（上益城郡山都町）

- ・IT導入時における課題・対策・取り組み・現場視察
- ・販売マーケティング手法（いちごの販売）



視察先②：坂より上自治会（八代市東陽町）

- ・地域集落での収益化の取り組み
- ・公民館の活用事例や観光農園の取り組み

令和5年度 農村RMO中央研修会

R5.11.16～17 3名参加



会場：TKP赤坂カンファレンスセンター（東京都赤坂）

関連施策等講義・交流会（ポスターセッション等）ワークショップ他

今年度の取組み

農用地保全

地域資源活用



【米】4,619㎡(棚田14枚)



【そば】1,486㎡(棚田4枚)



観光客のリサーチ



【みさお大豆】1,327㎡



行事継承 どんどや開催



KKT番組出演RMOのPR

今年度の取組み

農用地保全

- 農地の現状・意向調査
- 農地保全計画策定
- 自然農法やスマート農業の検討実施
- 中山間3協定協議
(次期対策への意向合意・多面的機能支払交付活用)

地域資源活用

- 地域資源活用個別計画の策定
- 農業体験やワーケーションの受入れ
- 伝統行事継承(どんどや)
- 遊休農地活用による農産物試験作付け(米・大豆・蕎麦)
- HP・ロゴ・キャッチコピーを制作しSNS等を活用した情報発信

生活支援

- 高齢者独居世帯等現状調査・ヒヤリング・ニーズ調査
- 生活支援実証内容の決定

空き家対策

- 空き家実態調査及び危険空き家利活用計画(国土交通省補助事業)

次年度に向けた取組み



- リジェネラティブ・オーガニック農法の実入りの検討
(RO認証取得を含む、カバークロップ、不耕起栽培など)
- 地域の生物多様性を活かした農地保全や、環境循環を視野に入れた取組みの検討



Regenerative
Organic
Certified®

これからの地域で支え合う村づくりを 菊鹿から



SAKIMORI agribu 

ご清聴ありがとうございました

令和6年度九州農政局農村RMO推進フォーラム

U-Bito JAPAN株式会社
2024.11.29



会社概要 IT×地方創生（地域プロデュース事業）

会社名： U-Bito JAPAN株式会社

代表： 代表取締役 村上貴志

設立： 2018年4月27日

所在地： 熊本県菊池市森北1077 （大阪出身、孫ターン）
コッコファームたまご庵内 2F インキュベーションオフィス

経歴

2015年 現）ソフトバンク株式会社退社（2002～2015）

2015年 菊池市 地域おこし協力隊（2015～2018）

2015年 移住・空き家管理担当

2018年 熊本県立農業大学卒業（社会人の部）

2018年 農泊推進事業（菊池ふるさと体験協議会）

2020年 くまもと地域おこし協力隊ネットワーク事務局

2022年 移住・空き家管理担当で山鹿市で従事

2022年 菊池農業高校評議員（熊本県教育委員会委嘱）

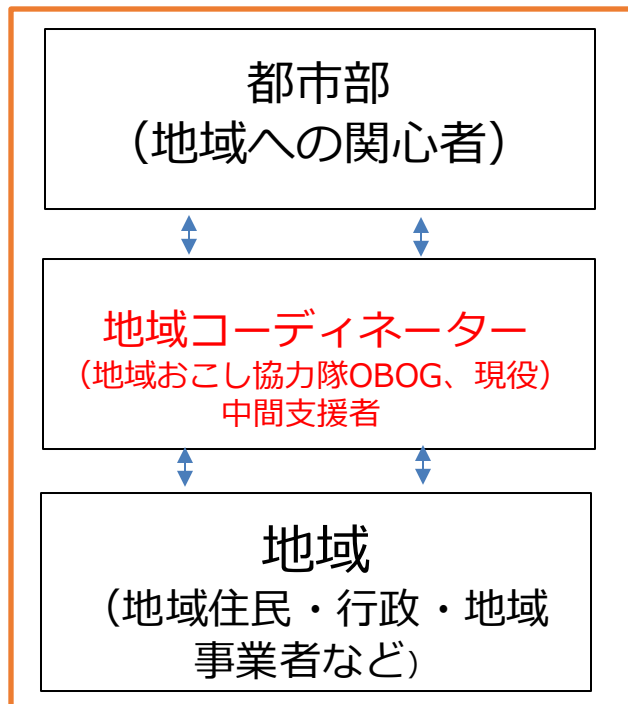
2023年 熊本県農村RMO（農村型地域運営組織）伴走支援業務

2024年 （株）コッコファーム アドバイザー

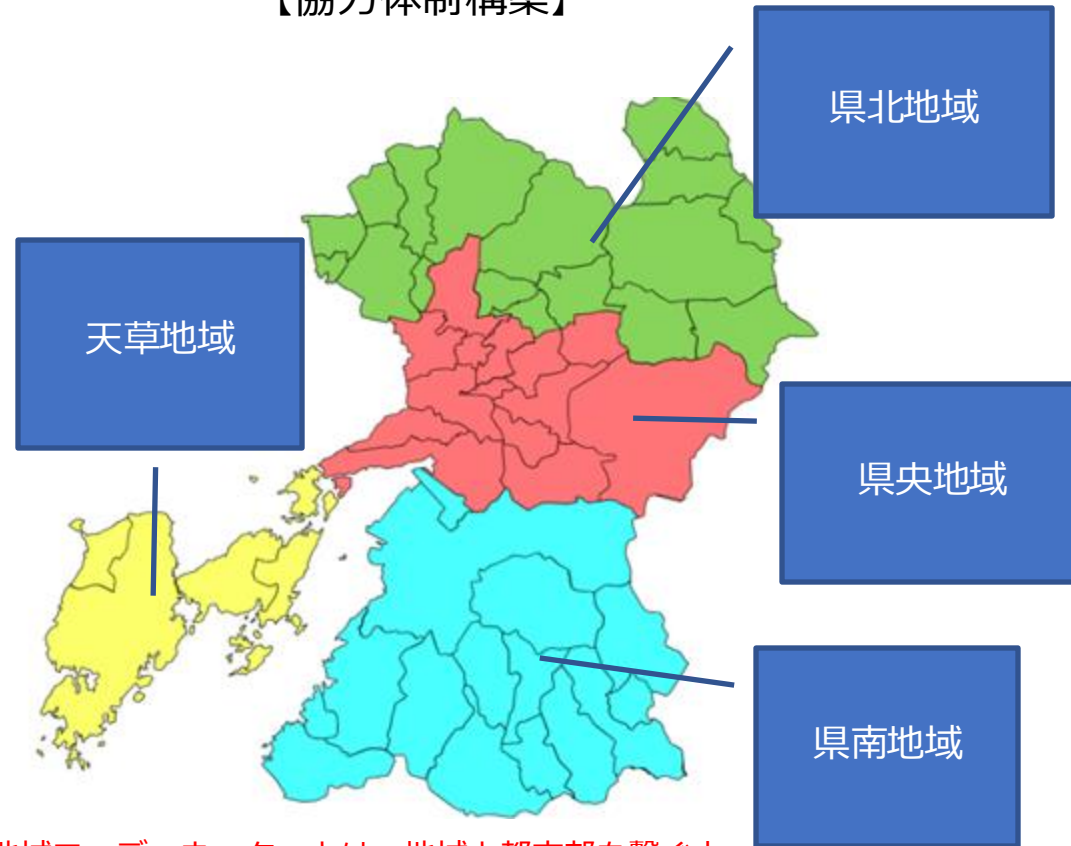
内閣府（関係人口創出事業） 令和3・4年度

熊本県内自治体との連携（地域コーディネーター制導入）

【事業スキーム】



【協力体制構築】



- 地域コーディネーターとは、地域と都市部を繋ぐ人。
地域でコミュニティーを形成し、様々な人々を巻き込み
地域で活発的に活動を行う人と定義する。



関係人口勉強会
(ワーケーションメニュー考案)



ライブコマース体験会
(オンラインお菓子づくり体験)

関係人口創出・拡大

伴奏事例①：菊池ふるさと体験協議会 運営事務局

コンテンツ開発

協議会設立
コンテンツ販売

事務局運営
(各種研修・交流会)

継続中
(伴奏支援)



2017年1月～



2018年12月～



2019年1月～現在



- ・熊本震災後、民泊推進をするために外国人向けのコンテンツ開発に従事（菊池市）
- ・協力隊任期終了後、U-Bito JAPAN（株）として2018年～事務局に従事。
- ・インターネット集客のため Airbnb活用

- ・コロナ禍で活動自粛となり連絡協議会へ体制変更
- ・各ホスト事業者はAirbnbサービスを活用し、自立して収益化。
- ・2024年度は、インバウンド需要回復傾向にあり、菊池での農泊を起点に阿蘇、大分など周遊。

伴奏事例②：熊本県地域おこし協力隊ネットワーク事業

勉強会
(年3回)

団体設立

事務局運営
(各種研修・交流会)

継続中
(伴奏支援)



2019年7月～1月



2020年2月



2021年6月～



2022年10月～

- ・熊本県地域振興課
- ・県内市町村〔熊本県・天草市・南小国町〕
- ・地域おこし協力隊〔山鹿市・荒尾市・小国町・上天草市〕
- ・外部有識者〔岡山県OBOG会 代表 藤井氏〕

- ・県内現役隊員への研修・交流会等の開催
- ・熊本市〔西区：河内芳野校区〕隊員募集採用・運営
- ・事務局運営〔U-Bito JAPAN（株）〕

伴奏事例③：熊本県R5農村RMO伴走支援事業（山鹿市）

現状把握

（会議出席、現場訪問等）

＊地域のニーズに応じた支援を実施



2023年8月～

- ・課題把握、事業進捗確認
- ・農用地保全、地域資源調査、生活支援のヒアリング調査

WS開催・専門家派遣・視察調整等支援

＊活動を共にして同じ目線を持つ



2023年10月～

- ・自然栽培専門家（嶋田自然農園 代表正之）による栽培方法現地WS開催
- ・その他、団体活動にも参加（稲刈り、どんどや等）



2023年11月～

- ・視察要望をヒアリングし、調整（八代市東陽町：坂より上自治会）
- ・他、山都町視察（なかはた農園：いちご農家）

ビジョン策定



2024年2月～

- ・ビジョン策定支援（グラフィックレコーディングの活用工夫）
- ・会議やWS意見を可視化し参加者で共有。参加できなかった人にも情報共有しやすく合意形成しやすい。

U-Bito JAPAN(株)の行動方針：「三現主義」の導入。三現主義とは、問題が発生したら「現場」に行って、「現物」をよく観察し、「現実（現象）」を把握して対処にあたる行動のことを指します。これは事実に基づいた正しい判断・処置を行うためのものです。

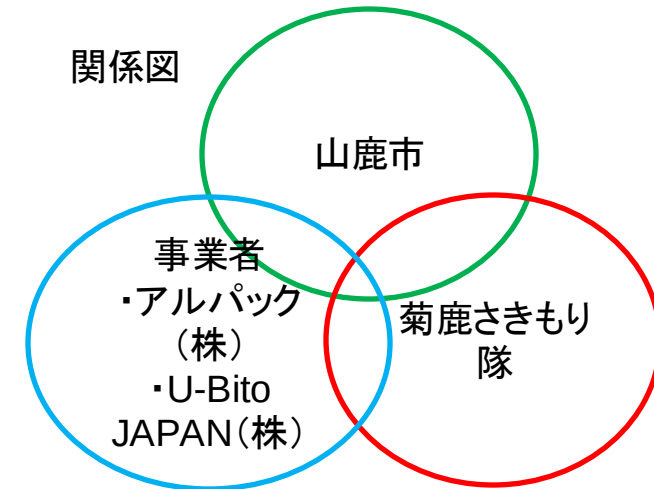
R5熊本県農村RMO事例集（一部抜粋）

<ポイント> 団体毎に応じた支援体制の構築

- ・仲間集め（同じ想いを持つ仲間・いろいろな属性の仲間・既存組織や他地域との連携・役割分担できる仲間）
- ・パターン③地域組織主体型から農地保全する組織



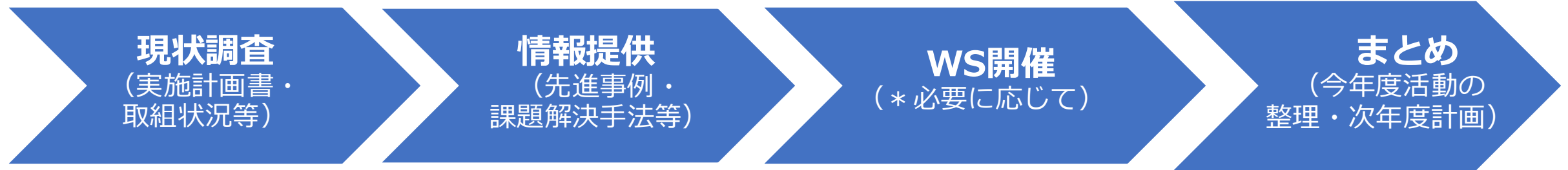
関係図



- ・ R6年度「空き家対策モデル事業」事業者との連携
- ・ WS実施予定（農村RMO+番所の棚田の空き家利活用）

今年度取り組み

業務内容：四半期（9月末・12月末・3月）ごとの状況を把握し県へ報告



* WS : ワークショップ

・現状調査及び把握

2地区訪問の後、今年度の計画書内容を把握し、取り組み状況の確認を行う（訪問月9月、12月、3月）

・情報提供

先進事例や他地域のRMO取り組みを、調査し情報提供する。必要に応じて視察調整も行う。

・ワークショップ開催

今年度取り組みまとめ、次年度計画等。

・まとめ、マニュアル（事例集作成）

最終年度に向けて、今年度まとめる。

*** 各地域のニーズにあうように、地域団体や各専門家と調整を行っていくことが可能。**

1

地域密着型



地域コミュニティとの連携を
中心に活動
(主に熊本県内で業務実施)

2

持続可能

若者から高齢者
全世代が参加



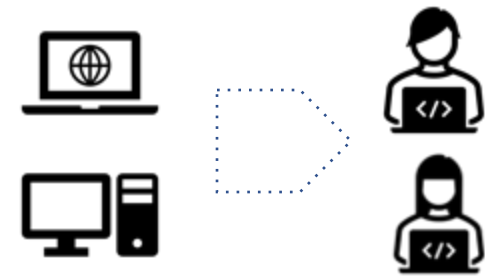
関係企業との事業は黒字化を
目指し、地域雇用・地元運営で行う

3

伴奏支援

(ばんそうしえん)

変化する社会を受け入れ
共に学び共に成長する



変化する社会に対応するため地域教育機関と連携。住民と共に成長するという意味で「奏（かなでる）」を利用している。

地域との関わりをこれからも

